

HQCナラティブシート

HQCチェック® の分析結果報告書

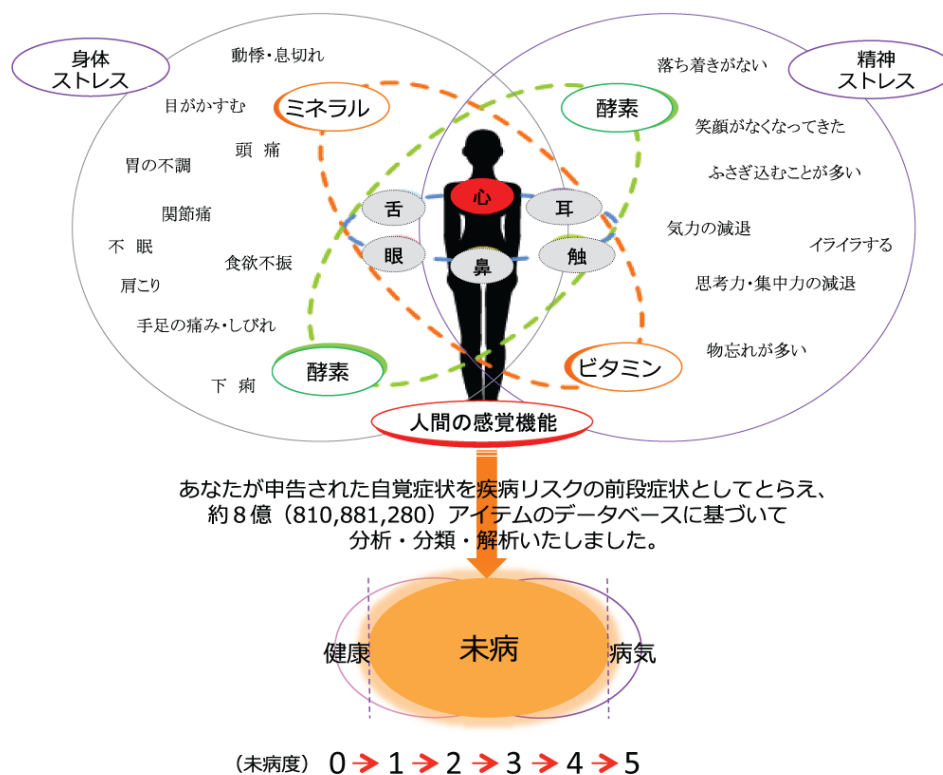
氏名：テスト パスポート 様 / 2018-08-28 15:02:00 実施

今や、ストレス社会といっても過言ではありません！

「身体ストレス」と「精神ストレス」が解消されず、慢性化傾向となっている事が体内への栄養素の吸収力、代謝力を低下させ、摂取された栄養素が体内で有効活用されていない状態につながり、体内酵素がムダに消耗される事が考えられます。

この現象は、人間力の感覚機能（眼・耳・鼻・舌・触・心）のバランスが崩れ、鈍化し、身体的には抗酸化力・免疫力の低下、また、精神的には自律神経系、脳代謝力の低下が生じ、人間が本来持っている「自然治癒力」を弱めることになります。

さらに、さまざまな生活習慣病などが誘発されるおもな要因となっています。



テスト パスポート 様は **未病度2** と計測されました

※「未病度」とは未病の状態から病気への進捗度合いを1～5の数値で示し、数値が高いほど病気に移行する段階が高まることを表します。

テスト パスポート様の **未病度2** の段階を、
一つひとつの分析結果に基づいて図形やグラフで、わかり易く解説いたします。



1. あなたの身体と心が必要としている栄養素は、

ビタミンB3

ビタミンB1

ビタミンB5

ビタミンC

カルシウム

ビタミンB12

この栄養素は、あなたの身体と心が必要としている体内酵素を補完するビタミン・ミネラルです。

これらの栄養素の主な働き（生理作用）があなたの体内で低下することによって、甲状腺ホルモンが多く分泌されることなどにより、全身の細胞の新陳代謝が異常に高まる状態でイライラ感、神経過敏また、あらゆる機能が無理やり働かせられている状態になるなど、情緒不安定の状態がうかがえます。このことにより、下痢、体重減少、発汗などの自律神経失調症状などにつながる事が考えられます

2. この栄養素の不足状態から、未病段階における疾病リスクは、

甲状腺機能亢進様傾向 が抽出されました。

その疾病傾向潜在率は、**47.1%** です。

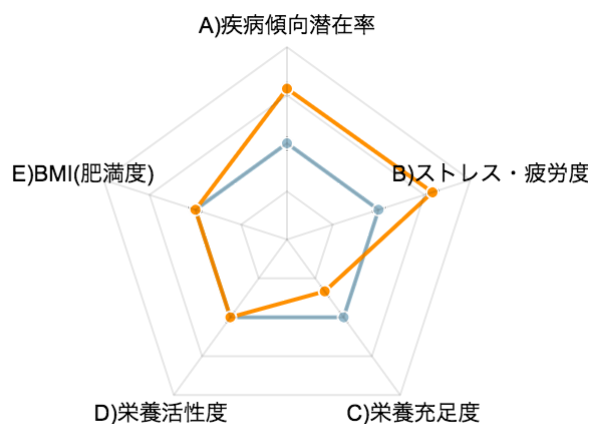
※疾病傾向潜在率40%以上を示した場合、日常の生活習慣に改善を要するサインとお考え下さい。50%を超えた場合は念のため医療機関で受診されることをお勧めします。

※この分析結果は約8億（810,881,280）アイテムの膨大なデータベースに基づいて分析・分類・解析する事により統計的に算出されたものです。医師が診断し特定したものではありません。

※「HQCチェック」は個別臨床実証検証に裏付けされたプログラムで運用されています。

3. テスト パスポート様の未病のタイプは、**3型** です。

体内活力分析項目	適正基準値	分析結果
A) 疾病傾向潜在率	20～30未満	47.1
B) ストレス・疲労度	15～20未満	43.5
C) 栄養充足度	75～90未満	56.7
D) 栄養活性度	50～60未満	52.4
E) BMI(肥満度)	20～23未満	22.3

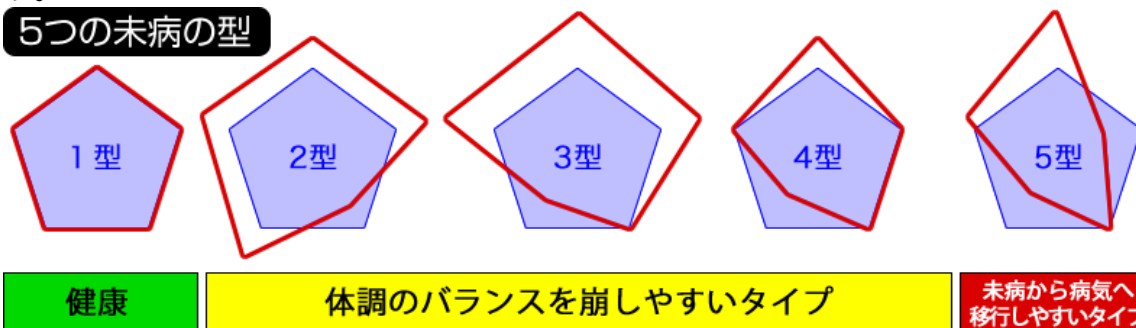


● あなたの未病タイプ 3型 の特徴は、
「ストレス・疲労度」は適正標準範囲値より高く、ストレスに対して過敏に反応する傾向が強い可能性があります。また、「栄養充足度」は適正標準範囲値よりも低く体内の栄養素が不足している事が考えられます。
なお、身体が感受するストレスに対し、摂食された栄養素が有効に活用されているか、また、代謝の活性化にどの程度関与しているかを数値化して表したものが「栄養活性度」です。あなたの場合は、「栄養活性度」が標準範囲値を示しており摂食された栄養素が体内で有効活用されている状態がうかがえます。
「BMI」は身長からみた体重の割合を示す体格指数（肥満度）の事です。BMI指数が18.5以上から25未満は「普通体重」の範囲で、指数22が標準値とされています。

未病タイプとは、

5項目の体内活力分析値（疾病傾向潜在率・疲労度・栄養充足度・栄養活性度・BMI値）に基づき、各々の分析値に適正および適度の標準値の範囲を設定し、その標準値を結び正五角形を健康型（1型）としています。その1型タイプに一人ひとりの分析結果の分析値を重ね、図形化した結果を「未病の状態」として、五つのタイプに表しています。

5つの未病の型



4. カラダとココロの元気度

●あなたのカラダの元気度（体内活力指数）は、**52%** です。

※数値が高ければ高いほどカラダの元気度が上がります。40%以下は生活習慣の見直しが必要です。

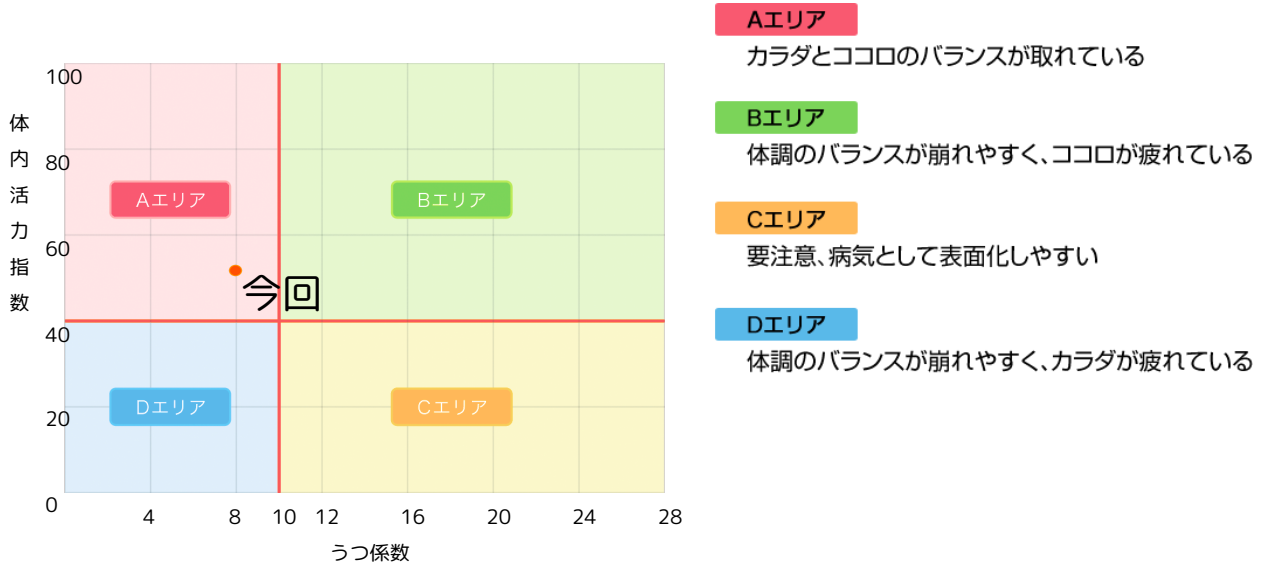
※疾病傾向潜在率が40%以上の高い数値が示された場合であっても、体内活力指数が40%以上であれば、元気になるという活力が高いことで、改善度が高まることが期待できます。

●あなたのココロの元気度（うつ係数）は、**8** です。

※数値が高ければ高いほどココロの元気度が下がります。10以上が、生活習慣の見直しが必要です。

※13を超えた場合、生活習慣の改善を要するサインとお考え下さい。（うつ症判定方法 - 特許出願済）

5. カラダとココロのバランスエリアは、**A** です。

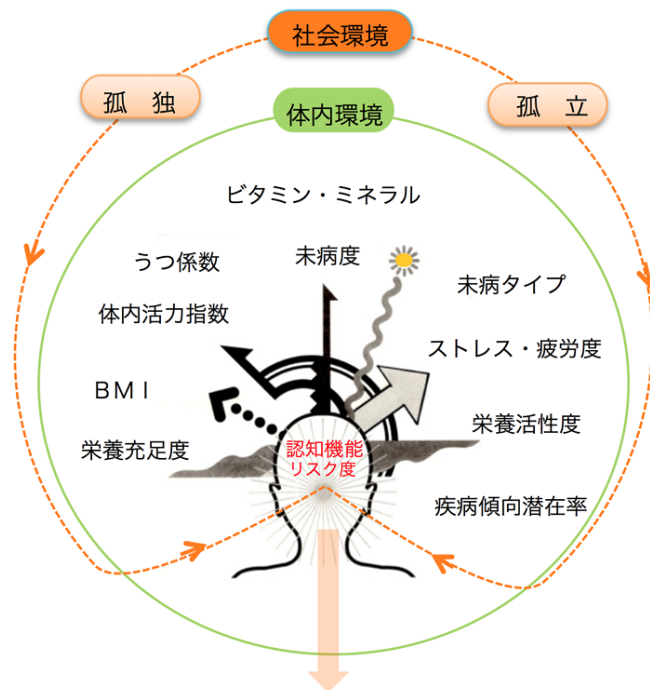


テスト パスポート様にお伝えしたいワンポイントアドバイス

このタイプの場合は、基本的にカラダとココロのバランスがとれている状態ですが、何かの拍子でストレスに対して身体が強く反応することが考えられ、未病段階における疾病傾向潜在率を異常に高める事になります。日々の生活の中で、体調変化などに注意を払っていただく事が必要です。「健康づくり」は、栄養と運動、そして癒しです。食生活においては、あなたのカラダとココロが必要としている栄養素を主に摂取される事をお勧めします。また、日常的に生活習慣の中に運動を取り入れる事ができているかどうかを見直される事が重要です。

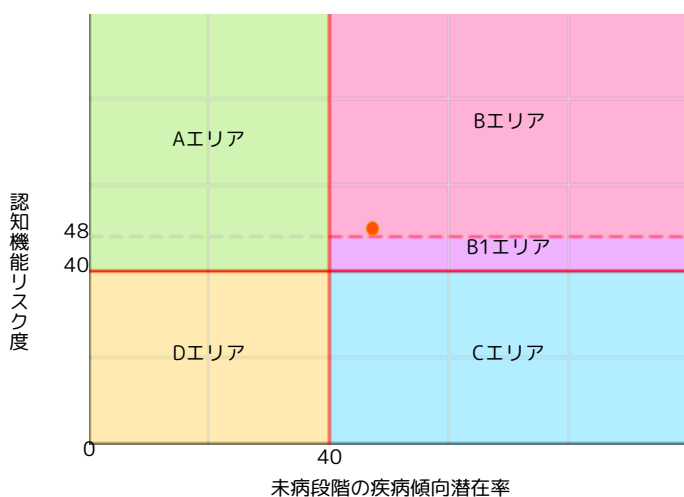
6. 認知機能リスク度

認知機能とは、人間の感覚機能（眼・耳・鼻・舌・触・心）を通じて外部から入ってきた情報から、自分の置かれている状態を認識したり、「記憶する」「考える」「判断する」「人とコミュニケーションをとる」など、私たちが日常生活を過ごすために欠かせない知的機能のことです。
現代社会はインターネット上での絆づくりが盛んにおこなわれていますが、その反面、対人関係や社会的なコミュニケーションが図れずに、孤独や孤立に陥る人が増えています。



テスト パスポート 様の 認知機能リスク度は **50** と測定され
Bエリア の位置に表示されました

※「認知機能リスク度」とは、未病段階における認知機能障害のリスク度合いを数値で表したものです。
40のラインを超えた場合は、生活習慣の改善が必要です。



Aエリア

疾病傾向潜在率が低いが認知機能リスク度が高いため、生活習慣の見直しが必要

Bエリア

認知機能リスク度が高く、疾病傾向潜在率が高いため、第2次予防段階の認知症の早期発見・早期予防を要する

B1エリア

認知機能リスク度が高く、疾病傾向潜在率が高いため、第1次予防段階の認知機能リスクへの予防を要する

Cエリア

認知機能リスク度は低い、疾病傾向潜在率が高いため、生活習慣の改善が必要

Dエリア

認知機能リスク度は低く、疾病傾向潜在率も低いことから、健康状態が維持されている